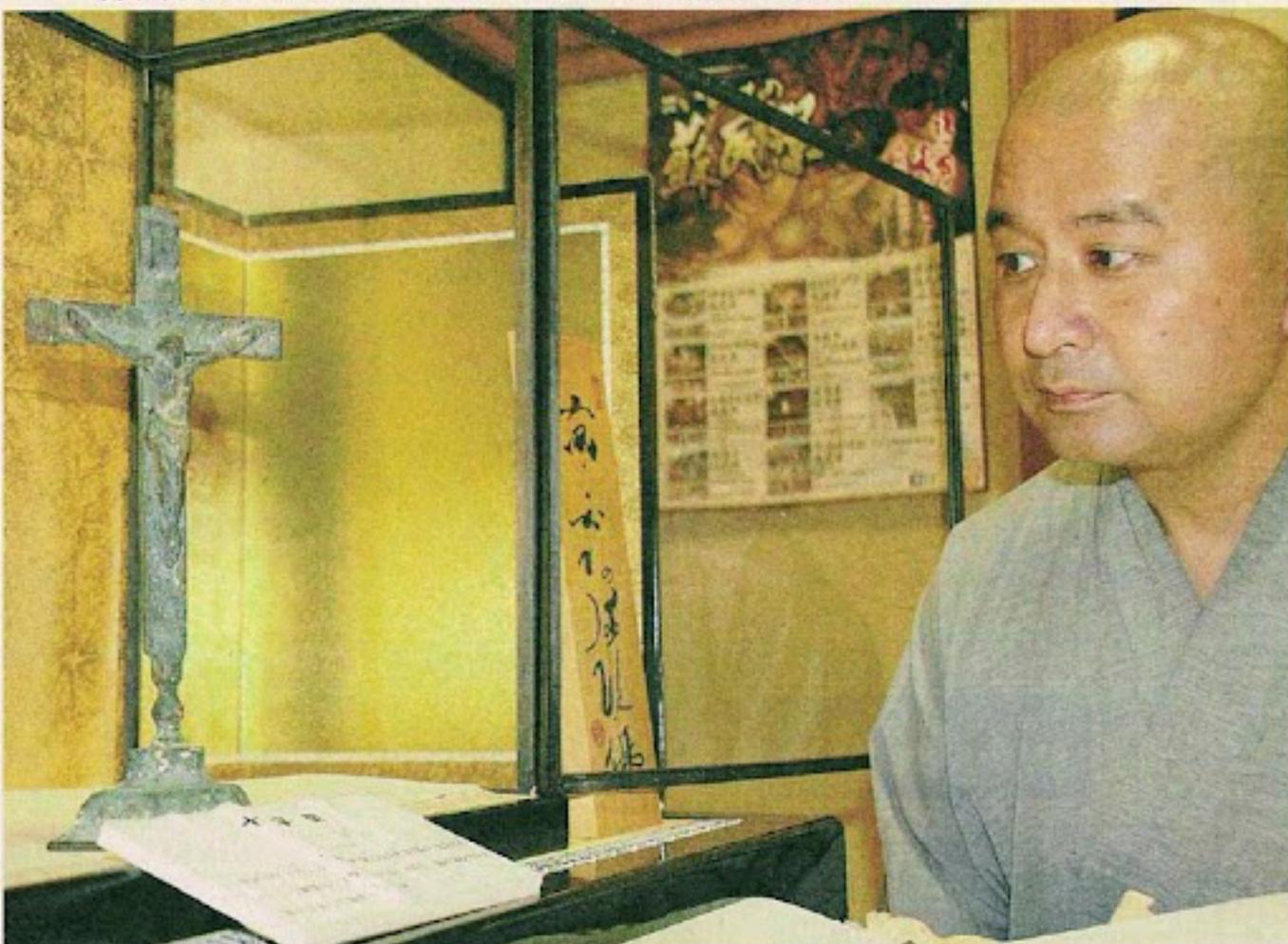


保呂羽にゆかりある十字架について情報提供を求めている渋谷住職



十字架と保呂羽 関係は

一関市藤沢町保呂羽にある長徳

寺の渋谷真之住職は、地元ゆかりある銅製の十字架(キリスト像)を調べている。北上市の岩崎地区交流センターが所蔵する品で、不明な点が多いことから現在借り受けて独自に調査中。1944(昭和19)年8月7日に保呂羽の石室内から発見された十字架だとい

い、渋谷住職は「もし何か少しでも分かることがあれば教えてほしい」と情報提供を求めている。

渋谷住職は縁あって昨秋、奥州

市の力トリック水沢教会を訪ねて

高橋昌神父と面会。そこで目にし

た資料に「保呂羽」と書かれた十

字架が掲載してあったため、「何

だこれは」と驚いたという。所蔵

する同センターでも詳細は不明

で、北上市立博物館に調査を依頼

したが、保呂羽との関係性までは

北上・岩崎地区交流センター所蔵品

情報提供求める 寺職 長住 藤沢 渋谷

分からなかった。

今回借り受けたのは、宗教を超えて世界平和を祈念する「切支丹殉教者合同慰霊祭」(今月17日開催)でお披露目するため。公開の前に実物を見た一関市教委文化財課の畠山篤雄さんは「私自身も初めてで分からない。いつからあるものなのか、どういう資料なのかを、さらに検討する必要があると思う」と話した。

これまで15人ほどの地元住民に聞くも、有力な情報は得られていない渋谷住職。「石室の存在すら誰も分からないし、古文書のようなものがあるのかも不明。こういうものは歴史を伝える地域の宝だと思う。何か手がかりはないものでしょうか」と呼び掛けている。

情報提供は同寺☎0191(6

3)39888へ。